

1.5 廃棄物・建設発生土（一般廃棄物、産業廃棄物）

1.5 廃棄物・建設発生土（一般廃棄物、産業廃棄物）

1.5.1 予測

(1) 工事及び撤去の実施により発生する産業廃棄物発生量及び処分量

本博覧会では環境の保全のための措置として公園整備事業の建築物（以下、「公園施設」といいます。）の利活用や仮設施設のレンタル・リースの採用を行うこととなっていますが、これらの環境保全措置を実施しなかった場合の工事中及び撤去中の産業廃棄物発生量及び処分量は表 1.5-1～表 1.5-2 に示すとおりです。

なお、予測地域・地点、予測時期、予測方法及び排出係数は、本編の 6.6.3(1)①～⑤に示すとおりです。

表 1.5-1 工事の実施により発生する産業廃棄物発生量及び処分量
(通常工法：公園施設と同規模の仮設施設を建築、レンタル・リースの採用なし)

単位：t

区分	用途	コンクリート塊	アスファルト・コンクリート塊	ガラス陶磁器	廃プラスチック	金属くず	木くず	紙くず	廃石膏ボード	その他	混合廃棄物
発生量 ①	仮設施設 (公園施設)	61.9	7.5	15.6	10.0	7.5	15.6	8.8	17.5	14.4	85.0
											243.8
	仮設施設 (仮設建築物)	759.7	85.6	179.1	118.7	99.2	189.3	113.2	229.9	192.3	1,041.4
											3,008.6
	仮設施設設計	821.5	93.1	194.8	128.7	106.7	205.0	122.0	247.4	206.7	1,126.4
再資源化率 ②	建設行為等 (植物ポット・トレー)	0.0	0.0	0.0	123.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
											123.2 (処分量 21.4)
処分量 ③ ^{注2}	合計										3,375.5
	非木造	100.0	100.0	87.2	82.6	97.9	98.8	97.6	79.4	95.5	87.4
	合計	0.0	0.0	24.9	43.8	2.2	2.5	2.9	51.0	9.3	141.9
											278.6

注1：再資源化率は、本編表 6.6-12 (p.6.6-20 参照) に示した再資源化率より設定しました。

注2：③=①-(①×②/100)

注3：四捨五入の関係から合計値が合わないことがあります。

注4：廃棄物の種類は、「平成 30 年度建設副産物実態調査結果」(国土交通省 令和 2 年 1 月) の表記に統一し、次のとおりとしました。

コンクリートがら：コンクリート塊 鉄筋・鉄骨：金属くず

注5：「公園施設」は、本博覧会で利活用する公園施設と同規模の仮設建築物を建設する際に発生する廃棄物量を示します。

表 1.5-2 撤去の実施により発生する産業廃棄物発生量及び処分量
(通常工法: 公園施設と同規模の仮設施設を撤去、レンタル・リースの採用なし)

単位: t

区分	用途	コンクリート塊	アスファルト・コンクリート塊	混合廃棄物	建設発生木材	廃プラスチック	紙くず	金属くず	廃石膏ボード	廃塩ビ管			
発生量 ①	仮設施設 (公園施設)	1,898.1	0.0	54.9	15.0	4.7	0.2	106.9	14.4	0.8			
					2,095.0								
	仮設施設 (仮設建築物)	23,825.2	0.0	689.6	188.3	58.8	2.4	1,341.5	181.2	9.4			
					26,296.3								
	仮設施設設計	25,723.3	0.0	744.5	203.3	63.5	2.5	1,448.4	195.7	10.2			
					28,391.3 (処分量 440.2)								
	園路広場等 (アスファルト・インターロッキング舗装、路盤)	32,283.0	14,875.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	駐車場・バスター・ミナル (アスファルト、路盤)	102,000.0	47,000.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	園路広場駐車場等 (浸透樹、浸透トレンチ)	2,064.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
再資源化率 (%) ②	駐車場・バスター・ミナル (照明ポール、基礎)	431.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0			
	工作物計	136,779.2	61,875.5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0			
				198,674.8 (処分量 0.4)									
処分量 ③ ^{注2}	撤去合計	162,502.5	61,875.5	744.5	203.3	63.5	2.5	1,468.4	195.7	10.2			
					227,066.1								
再資源化率 (%) ①	非木造	100.0	100.0	53.5	100.0	81.3	97.9	98.0	75.0	58.7			
処分量 ③ ^{注2}	合計	0.0	0.0	346.2	0.0	11.9	0.1	29.4	48.9	4.2			
					440.6								

注1: 再資源化率は、本編表 6.6-13 (p.6.6-20 参照) に示した再資源化率より設定しました。

注2: ③=①-(①×②/100)

注3: 四捨五入の関係から合計値が合わないことがあります。

注4: 廃棄物の種類は、「平成30年度建設副産物実態調査結果」(国土交通省 令和2年1月)の表記を用いました。

廃塩化ビニル管・継手は「廃塩ビ管」と表記しています。

注5: 「公園施設」は、本博覧会で利活用する公園施設と同規模の仮設建築物を撤去する際に発生する廃棄物量を示します。